

つなぐ



＜設立状況(R4.8.1) 全41地区中＞
 まちづくり協議会 30(32 地区)
 まちづくり協議会準備会 0(0 地区)

Vol. 44

発行：松山市役所 まちづくり推進課 TEL: (089) 948-6963 FAX: (089) 934-1821

H P : <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/chiikicomunity/tikudayori.html>

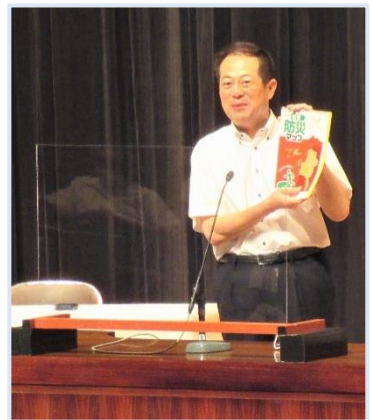
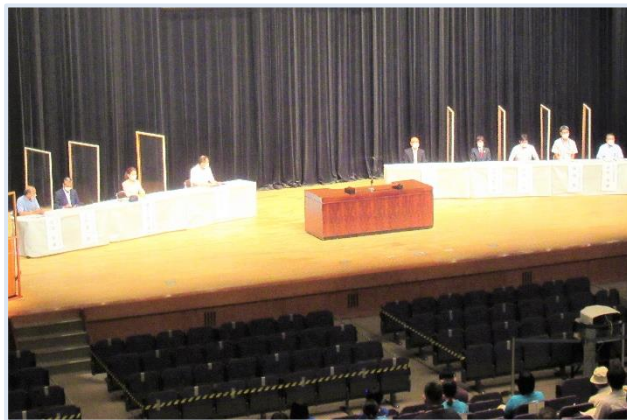
Facebook : <https://www.facebook.com/machijoho>

Facebook まちづくり協議会情報局



地域力パワーアップ大会

～まちづくり×防災について考えよう～



ご来場いただいたみなさん、開催にご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございます。この大会が、新たなつながりが生まれるきっかけになれば幸いです。

正面広場には、五明地区まちづくり協議会のキッチンカーによる伊台・五明こうげんぶどうのソースがかかったソフトクリーム、松山市女性防火クラブ連合会による手作りマドレーヌ、風早活性化協議会による北条鯛めしのおにぎりをそれぞれテイクアウトのみで販売しました。たくさんの方にテイクアウトしていただき楽しんでいただけたと思います！

当日は200名以上の方にご来場いただきました。会場外のロビーには「〇〇地区といえど」というテーマで各まちづくり協議会に作成していただいた川柳を掲示しました。来場者の多くが足を止めて、各地区の個性ある川柳を鑑賞していました。

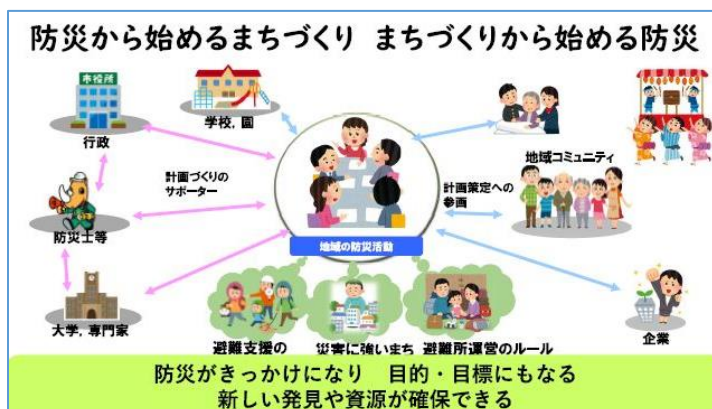
令和4年8月6日(土)に松山市コミュニティセンターのキャメリアホールで地域力パワーアップ大会「まちづくり×防災について考えよう」を開催しました。



「防災から始めるまちづくり まちづくりから始める防災」

香川大学創造工学部
磯打 千雅子 特命准教授

- ・倉敷市真備町は、水害と共に歩んで来たまち。その中でも、川辺地区の事例を紹介する。川辺地区は平成30年7月豪雨災害により、地区のほぼ全域が浸水した。
- ・平成31年(令和元年)から、住民有志による団体が自分たちのまちの未来を話し合う「川辺みらいミーティング」という活動を実施。子どもたちや町内会など様々な人を巻き込んで、「黄色いタスキ大作戦」を実施。「黄色いタスキ大作戦」とは、災害発生時に家の玄関に「無事です」と書かれた黄色のタスキを道から見えるように結ぶ活動。
- ・この黄色いタスキを使った訓練を昨年と今年の2回実施し、川辺地区の参加率は6割を超えた。タスキを結ぶ訓練は、前日から玄関に結んでおくなど誰でも参加しやすい訓練であるため、参加率が高かったと考えられる。たくさんの住民が参加していることが目に見えてわかり、防災に関わる方のモチベーションや達成感にもつながった。
- ・岡山県津山市城西地区の事例。公民館ができたことをきっかけに、城西まちづくり協議会が組織化され「小規模多機能自治」として3つのテーマ別部会を中心に地域づくりに取り組んだ。
- ・平成28年に内閣府地区防災計画モデル地区に選定され、月1回の定例会議を開催。地域の人々が災害に対して不安に思うことに対し、自分でできること、地域で協力したらより成果がでること、行政と連携したほうがいいことの3つの内容に分けて意見を出し合ったところ、城西地区では、地域で協力したほうがいいことに焦点を当て活動した。
- ・防災に対し、関心がある人は多い。防災をきっかけに人が集まり、新たな担い手の発掘につながった。また防災力がまちの魅力となり、全国から視察が訪れ、地域の方のまちづくりのモチベーションにもよい影響を与えた。



「安全・安心なまちを目指して」

素鷺地区まちづくり協議会



- ・令和元年9月に「素鷺地区まちづくり協議会準備会」を設立。その後、令和2年7月に「素鷺地区まちづくり協議会」を設立。
- ・平成30年5月には、素鷺地区連合自主防災会と拓南中学校、拓南中学校 PTA の3者で「災害発生時における応援協力体制に関する協定」を結ぶ。これは、防災避難訓練や大規模災害が発生した時、中学生が協力することについての覚書。
- ・協定を契機に、拓南中学校3年生で構成された「防災中学部」が素鷺地区自主防災連合会に加わる。拓南中学校では、防災教育を実施していて1、2年生で防災について学び、3年生が実際に訓練に参加している。中学生が団体として自主防災組織に加入することは市内で初めて。
- ・活動が続ける中で、大規模災害が発生したときの死者は高齢者の割合が高いということを知る。そこで、防災に強いまちづくりには、地域のどこにどんな人が住んでいてどんな支援が必要なのかを知っている町内会長や民生委員の協力が必要だと考えようになった。
- ・素鷺地区まちづくり協議会ができてから、地域の団体が集まる役員会を毎月行っているので、防災避難訓練に参加してもらうよう声をかけた。今年度、避難所運営マニュアルを作成する予定だが、素鷺地区では町内会長や民生委員にも協力してもらう。
- ・ノーマライゼーションの理念を持って、障がいのある人や高齢者まで素鷺に住む人が安全に、安心して暮らせるまち、そして、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生き生きと暮らせるまちを目指していく。



パネルディスカッション

まちづくり×防災～みんなが住み良いまちを目指して～

誰のために何ができるのかを考えてみると、それが転じて自分を助けることにつながります。



香川大学 創造工学部
特命准教授
磯打 千雅子さん

地域の住民として、同じ地域に助けが必要な人がいれば、駆け付けたいと思っています。



素鷲地区まちづくり協議会
安全安心部長
泉 治雄さん

日頃から危険予知と対策を心の片隅に置いて行動することの大切さを伝えていきたいです。



石井地区
自主防災組織連合会
会長 和田 圭理さん

ボランティアを通して多くの方とのつながりができました。ぜひ、みなさんの活動のお手伝いをさせていただきます！



聖カタリナ大学
学生ボランティア
センター
土佐 詩織さん

まちづくり協議会などの団体と連携しながら、一緒に安全な松山を作っていくましよう！



【コーディネーター】
愛媛大学防災情報研究センター
副センター長 二神 透さん

「松山市コミュニティ・アドバイザー」から

防災に限らず、何事にも共通してありますが、当事者として意識を持つことが大切です。そして、いざというときのために自分の動きや役割を想定しておくことが必要だと思います。みんなの話し合いによって、それぞれの正解を作り出していけばよいと思っています。これからもみんなで頑張りましょう。



前田 眞
アドバイザー

まちづくりや防災について考えるとポイントが4つあります。現在は、100歳まで生きる「超高齢化社会」であり、そして「人口減少社会」、「情報化社会」、「自然災害多発社会」であるということです。

自分たちがどう生きるのかを考えながら、防災を通して、まちづくりやまちづくり協議会の活動を進めることで、住み良い松山にしていきたいと思います。



若松 進一
アドバイザー